○山口縣のツルアカミノキ（岡 國夫）Kunio OKA: **Anamtia stolonifera** Koidz. found in Yamaguchi Pref.

山口縣下の植物は往年二階重樓，小田常太郎其他の諸氏によりかなりの採集が行われたが，他縣に比べれば未だ甚だしく調査手薄である。筆者は數年來このフロラを明らかにせんと調査研究に努めているが，特に南方暖地産植物が續々と檢出されていることは興味深い。たゞこの地域は早くから大陸との交渉が開けて土地の利用度が高く，このため低地帶は殆どアカマツ林となり固有の暖地性植物が著しく減少したのであつて，本來は南方系の種類が質量共に更に多かつたのではないかと思われる。そして暖地性植物分布上この長門，周防を含む地域を防長區と呼んで，表日本の紀伊，伊豆と對比して今後暖地性植物の分布を考察して見たいと考えている。この著しい一例はツルアカミノキ（ツルマンリョウ）である。これは今まで日本では早田博士（1911）が臺灣産を報告され，次いで小泉博士（1923）が大和で2ケ所，正宗博士(1928)が屋久島で發見されたにとどまつていたのであるが，最近は小清水，菅沼兩氏が再び大和で2ケ所を附け加えられた。

筆者は 1951 年6月，長門厚狹郡二俣瀨村の神社林で偶然このものに行き當つた。ここはかなり澤山生じて相當の群落をなしているので，目下山口大學文理學部の學生諸君とこの群落の解析に從事している。次いで同 12 月には山口大學農學部日野教授のお伴をして歩き，周防佐波郡出雲村の神社林で發見した。ここは産量が少いが，他の珍しい暖地性植物が多く，ルリミノキ，ナガバジュズネノキ，シロバイ，フウラン等の他イチイガシの大木（胸高周圍 6.5米）等があり，附近の二次林の林相と全く異つている。兩産地共ツルアカミノキの群生地は優喬木層はコジイを，亜喬木層はシイモチを優占種とし，何れも相當暗い林床となつている。森林を伐り拂つて出來た明るい二次林でこれが絶滅したものと考えれば，まだ各地の神社林などに見付かるのではないかと思われる。著しい不連續分布の例として擧げられていたこの植物も，これで幾分連續化したわけである。論文の寫し或は別刷を恵與された初島博士及び菅沼氏にお禮申上げます。

Anamtia stolonifera Koidz. (*Myrsine stolonifera* Walker)

Hab. Prov. Nagato, Futamatase-mura (K. Oka, Jun. 1951); Prov. Suwo, Izumo-mura (K. Oka, Dec. 1951). New to western Hondo.

Distr. Japan: Prov. Yamato & Isl. Yakuishma, Formosa. China? （山口大學理學部植物學教室）